研究主題「社会的事象について広い視野から考え表現する児童の育成
ークリティカル・シンキングを促す授業を通してー」

東京都教職員研修センター研修部教育開発課
港区立芝浦小学校　主任教諭　菅　　彰

第１　研究のねらい

全国の児童の学力の実態として、PISA 調査などの各種調査から思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題に課題があると指摘されている。また、平成 25 年度児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会）では、「読み取る力」の定着状況を調査するための観点である「比較・関連付けて読み取る力」、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の正答率はいずれも５割程度であった。

知識基盤社会、グローバル化の進展等を社会的な背景として、国立教育政策研究所の報告書等において､物事を多様な観点から考察するクリティカル･シンキングの重要性が提言された。このクリティカル・シンキングは、主体的、自立的に行動するための基本となる資質や能力の育成をねらいとする「生きる力」とも合致する。小学校学習指導要領解説社会編では、小学校、中学校及び高等学校を通じて、社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を育むことを重視している。

本研究では、小学校社会科授業において、クリティカル・シンキングを促す授業を通して、社会的事象について広い視野から考え表現する児童を育てていくことをねらいとした。

第２　研究仮説

社会科におけるクリティカル・シンキングを促す学習活動等を設定し、多面的・多角的な視点や論理的思考、自己の客観的な振り返りを学習過程に位置付けて促すことで、物事を多様な観点から考察する力を育成すれば、社会的事象について広い視野から考え表現する児童を育てることができるであろう。

第３　研究の内容と方法

１　基礎研究

小学校学習指導要領解説社会編や思考力・判断力・表現力等の育成に関する先行研究の分析をした。また、平成 24 年度東京都多摩地区教育推進委員会「クリティカル・シンキングを取り入れた授業づくり」等を基に、社会科におけるクリティカル・シンキングを「物事を多様な観点から考察すること」と定義し、構成要素を「多面的・多角的な視点」、「論理的思考」、「自己の客観的な振り返り」とした。

２　調査研究（質問紙調査法）

平成 26 年７月、都内公立小学校６校で社会科授業における思考力・判断力・表現力等の育成に関する意識調査を教員 67 名に、取組に関する意識調査を児童 381 名を対象に実施した。

(1) 社会科授業における教員の意識調査の結果

意識調査の各質問項目の指導について意識していないと回答をした教員が「多面的・多角的な視点」をもたせる指導では 28%、「論理的思考」をさせる指導では 25%、「自己の客観的な振り返り」をさせる指導では 50%であった。社会科授業における教員のクリティカル・シンキン

グの三つの構成要素に関する指導の意識が高くないことが明らかになった。

(2) 社会科授業における児童の意識調査の結果

社会科授業におけるクリティカル・シンキングの三つの構成要素に関する設問で意識していると回答した児童は全体の 64%、意識していないと回答した児童は全体の 36%であった。

三つの構成要素の意識と比較・関連付ける意識、意図や背景、理由を理解・解釈・推論する意識を問う設問とをクロス集計した（表１）。その結果、三つの構成要素を意識している児童は、調べた情報を比較・関連付け、意図や背景、理由を理解・解釈・推論する意識が高いことが分かった。クリティカル・シンキングの構成要素と比較・関連付ける意識・意図や背景、理由を理解・解釈・推論する意識には、相関関係があることが明らかになった。

	三つの構成要素について意識していない･分からないと回答した児童	三つの構成要素について意識していると回答した児童
比較・関連付ける意識があると回答した児童	49%	93%
意図や背景、理由を理解・解釈・推論する意識があると回答した児童	57%	91%

表１ 児童のアンケート結果

３ 開発研究

(1) 社会科におけるクリティカル・シンキングを促す学習活動等の設定

「多面的・多角的な視点」、「論理的思考」、「自己の客観的な振り返り」のクリティカル・シンキングの三つの構成要素に分けて、具体的な活動等をまとめた(図１)。

多面的・多角的な視点	１社会的事象の特色や相互の関連を考える。 ２社会的事象の意味や働きを広い視野から考える。 ３伝え合いを通して、自分の考えを広げたり深めたり、新たな考えに気付いたりする。 ４共通点や相違点、利点や欠点を考えながら話し合う。 ５互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合う。 ６互いの感想を交流し、表現の違いを考える。

図１ 多面的・多角的な視点

(2) 一単位時間ごとに三つの構成要素を取り入れた学習過程の設定

一般的な社会科における学習過程を基本にして、細分化し、各段階で意図的・計画的に三つの構成要素を位置付けた（表２）。

つかむ ⇒		調べる ⇒			まとめる	
資料等との出会い・分析	課題の明確化	情報の収集・分析	伝え合い	考え方の振り返り	学習の仕方の振り返り	まとめ
①	②	①、②	①、②、③	③、①、②	③	①、③、②

表２ 学習過程 （※クリティカル・シンキングの三つの構成要素①多面的・多角的な視点②論理的思考③自己の客観的な振り返り）【※①～③は学習過程に合わせて順序性を示している。】

(3) 児童に多面的・多角的な視点をもたせるための資料や付箋の活用

児童が自ら調べたことや伝え合いを通して知った友達の意見、新たに気が付いたこと等を色別の付箋に書いた。その上で、比較・関連付けをしながらグループ化し、小見出しを付け、矢印を使って構造化していく指導を行った。

(4) 自己の客観的な振り返りをできるようにするためのワークシート、自己評価シートの活用

ア ワークシートの活用について

課題に対して自分の考えをもち、調べる活動や伝え合い、付箋の活用を通して、自己の考えの客観的な振り返りができるようにした。

イ 自己評価シートの活用

学習過程に沿って自己の学習の仕方を振り返り、次時の学習に生かすことができるようにした。３段階で自己評価し、毎時間取り組むことで、作業時間も短縮できるようにした。

(5) 児童の論理的思考を育成するための学習のまとめの言語化

児童に授業で調べたことを比較・関連付けて、課題に対して多様な観点から考察し、文章表現させる活動を一単位時間、単元の終末に取り組んだ。

４　検証授業　第４学年　大単元名「住みよいくらしをつくる」、小単元名「水はどこから」

(1) 学習のまとめにおけるクリティカル・シンキングの評価指標の作成と分析

クリティカル・シンキングを促した結果、一単位時間の終末に児童が言語化した学習のまとめにおいて、児童が物事を多様な観点から考察し、論理的にまとめることができているかどうかを判断する評価指標（表３）を作成した。

クリティカル・シンキングの三つの構成要素	学習のまとめにおけるクリティカル・シンキングの評価指標の項目
多面的・多角的な視点	1　自分の経験や考え方、思い等を基にしてまとめている。 2　共通点や相違点、利点や欠点等を考え、まとめている。 3　伝え合いを通して、自分の考えを広げたり、深めたり、新たな考えに気付いたりしたことをまとめている。 4　二つ以上の側面や立場でまとめている。
論理的思考	1　予想を基に調べて分かったことをまとめている。 2　調べて分かったことから考えたことをまとめている。 3　授業中に学んだ大事なキーワードや情報を使ってまとめている。 4　一単位時間のねらいをまとめている。 5　調べたことを比較・関連付けてまとめている。 6　社会的事象の意図や背景を理解・解釈・推論してまとめている。 7　学習したこと等を順序立ててまとめている。 8　自分の考えを根拠を基にして詳しくまとめている。 9　次の授業につながる、単元のねらいに迫る疑問等をまとめている。 10　学習問題について現時点での自分の考えをまとめている。
自己の客観的な振り返り	1　課題を書くことができている。 2　課題に対して自分の考えを見直し、考えの変化をまとめている。 3　自己評価を生かしてまとめている。

表３　学習のまとめにおけるクリティカル・シンキングの評価指標〈一部省略〉

一単位時間の終末に児童が言語化した学習のまとめを分析し、到達できた項目を数値で表した。全 15 時間の中で、浄水場見学の２時間を除いた第１時から第 14 時までの全児童について分析した（図２）。

分析の結果、学級のクリティカル・シンキングの平均の値が高まっていることが分かる。

第２時で低くなったのは学習問題づくりに戸惑った児童が多かったこと、第９・10 時の伸びは、繰り返しの学習で学習の仕方が身に付いたことによる変容であると考える。

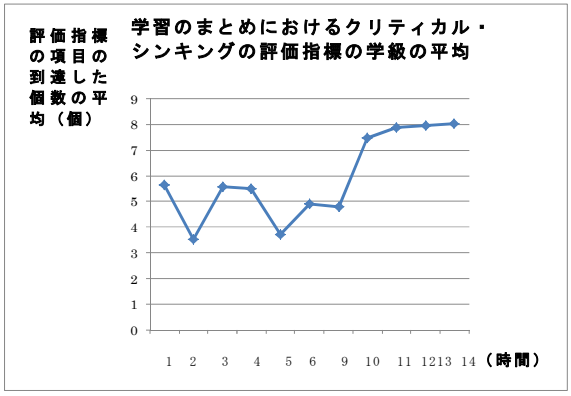

図２　学習のまとめにおけるクリティカル・シンキングの評価指標の学級の平均

(2) 「社会的事象について広い視野から考え表現する児童評価指標」を活用した分析

単元の最後の時間である第 15 時に学習問題に対して自分の考えを言語化する活動をした。児童の記述の分析に当たっては、広い視野から表現する児童に育っているかどうかを判断するために評価指標（図３）を作成した。

○既習事項にふれている。
○学習指導要領解説社会編に示す内容における社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念等を自分の言葉で表現している。
○社会的な見方や考え方の高まりを表現している。
○社会の一員としての自覚や社会参画する態度を表現している。

図３　社会的事象について広い視野から表現する児童評価指標〈４項目〉

その結果、９名の児童が４項目の全てにふれていた（図４）。これらの児童は、「社会的事象について広い視野から考え表現する児童」と捉えることができる。

学習問題は、「我が国は、人々が安心して飲める水をだれがどのようにしてみんなのところへ届けているのだろう。」でした。ぼくは、■浄水場やダムや水源林等のじゃ口に届く前の水を管理し、きれいにする人だけでなく、ぼくたちが使った後の水をきれいにする人たちがいて、その人たちもおいしい水を飲んでほしいと、みんなのためにという思いで仕事をしていることが分かりました。また、■ダム工事のために湖底にしずんだ村があることも知りました。◆そのような人がいなければ、今安全な水を使えないんだと思いました。●じゃ口から安全でおいしい水を使えるのは、とてもありがたいことなので、▲これからは、水を大事に使おうと思いました。
※■：既習事項にふれている、◆：学習指導要領解説社会編に示す内容における社会的事象に関する基礎的・基本的な知識、概念等を自分の言葉で表現している、●：社会的な見方や考え方の高まりを表現している、▲：社会の一員としての自覚や社会参画する態度を表現している

図４　社会的事象について広い視野から考え表現する児童の記述

(3) 児童の分析（ワークシート）

社会的事象について広い視野から考え表現している９名の児童のワークシートを再度分析し、共通点を探った。共通点は以下のとおりである。

- 導入時に行う前時の評価が高かった児童のワークシートの記述の紹介と価値付け、頑張りを認める指導を生かしている。
- ワークシートに書かれた教師のコメントを生かしている。
- 設定した学習過程で行う授業の進め方に慣れている。
- 伝え合いを通して調べたことを書いた付箋を比較・関連付け、構造化している。
- 自己評価で自分を振り返り、自己の課題を把握して次時の目標をもっている。
- 一単位時間の学習のまとめに当たって、学習課題から書き始めさせる指導や学習問題についての自分の考えをまとめさせる指導を生かしている。

(4) 意識調査の比較

検証授業の事前・事後で実施した学級の児童（40 名在籍）の社会科授業における意識調査を比較した(図５)。

○社会科授業の学習途中に、自分の考えが正しいかを振り返りながら取り組むことができているか。
○社会科授業で、どのように調べて考え、まとめていけばよいか等の学習の仕方を考えながら取り組むことができているか。

図５　意識が向上した意識調査の設問

「自分の考えの振り返り」についての意識が 25 名から 30 名に、「学習の仕方の振り返り」についての意識が 26 名から 31 名に増加した。

第４　研究の成果

- ワークシートにおいて付箋を比較・関連させて構造化する児童が第 14 時で 22 名になった（図６）。
- 学習のまとめ、学習問題に対する自分の考えを多面的・多角的にまとめられるようになった。

以上のことから、社会的事象について広い視野から考え表現する児童を育成するためには、クリティカル・シンキングを促す授業を通して調べたことを比較・関連付け構造化させる指導が有効であることが明らかになった。

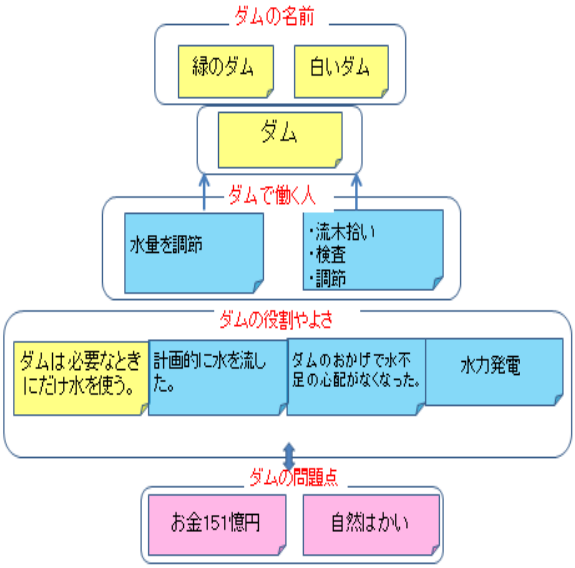

図６　児童と構造化した付箋

第５　今後の課題

- 学習問題に対して広い視野から考え表現する評価指標の４項目を一つも満たせない児童が２名いたこと。
- 社会の一員としての自覚や社会参画する態度をまとめた児童が 13 名にとどまったこと。

以上のことから、児童に評価指標を示し、地域における体験的な活動を更に取り入れ、意欲と社会参画の意識をより一層高めることが課題である。